

経営比較分析表（令和6年度決算）

東京都 調布市

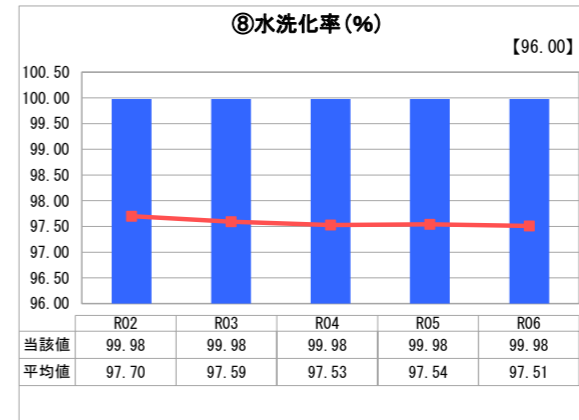
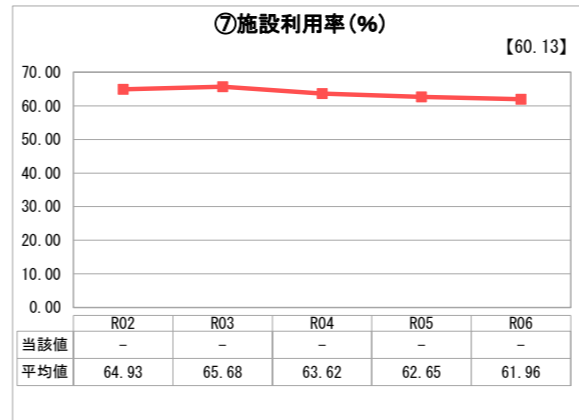
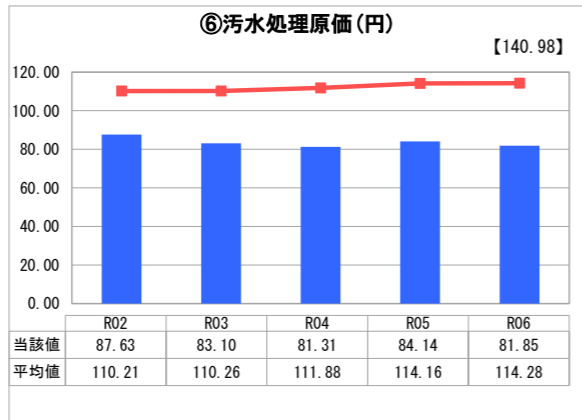
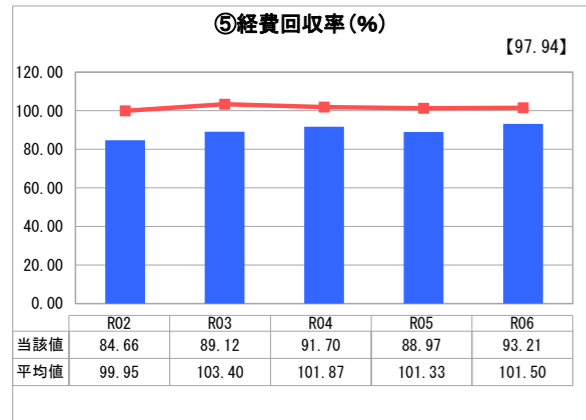
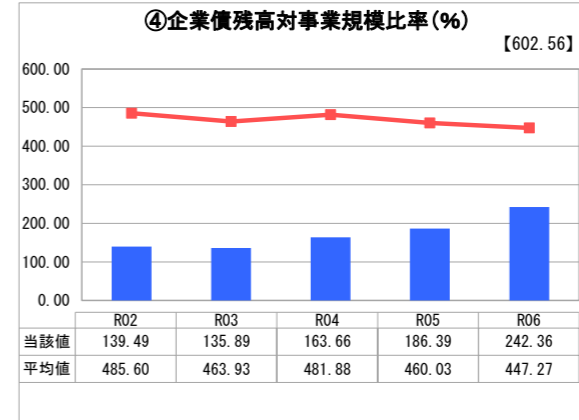
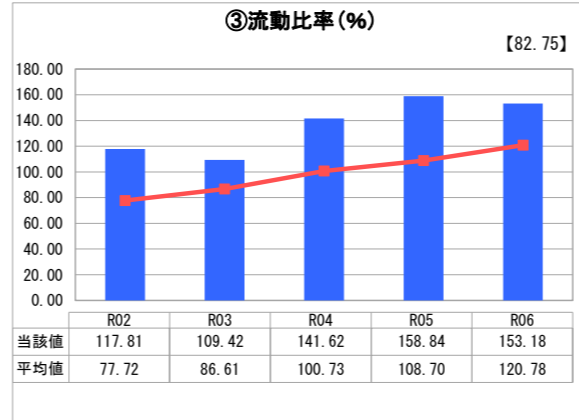
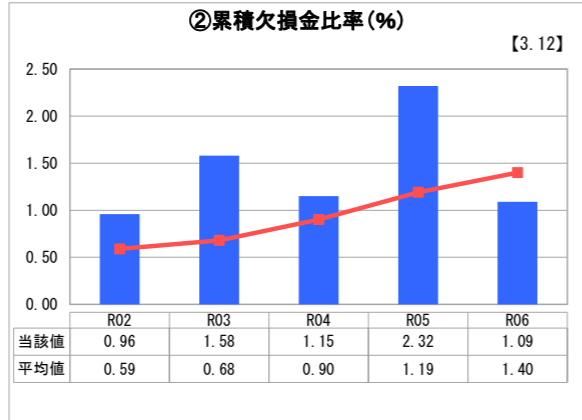
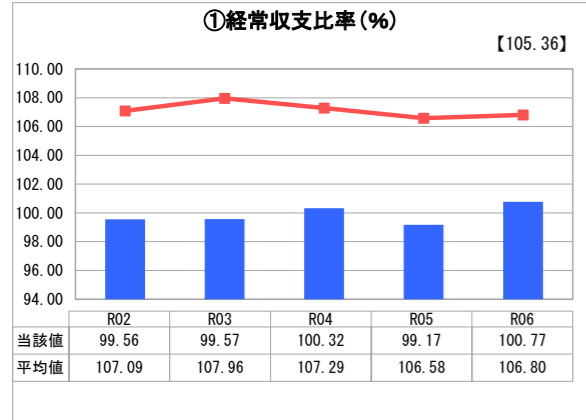
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	64.47	100.00	80.00	1,276

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
239,348	21.58	11,091.20
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
239,726	19.55	12,262.20

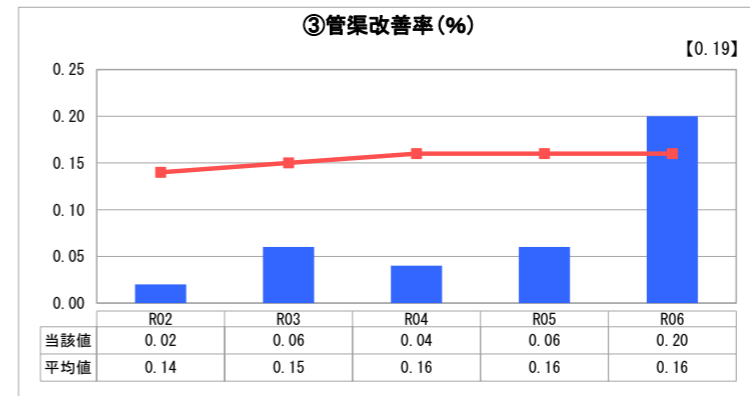
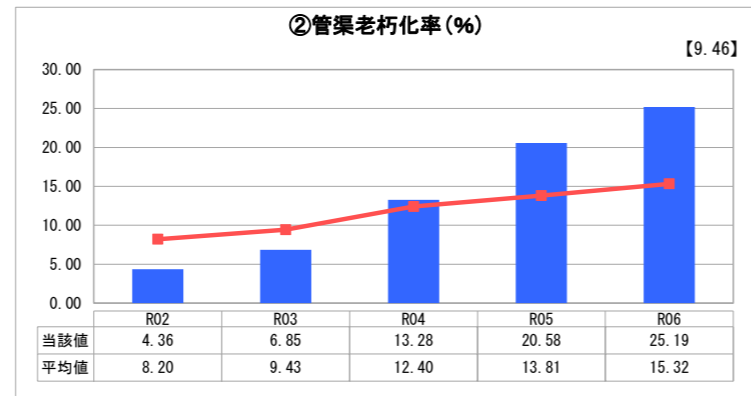
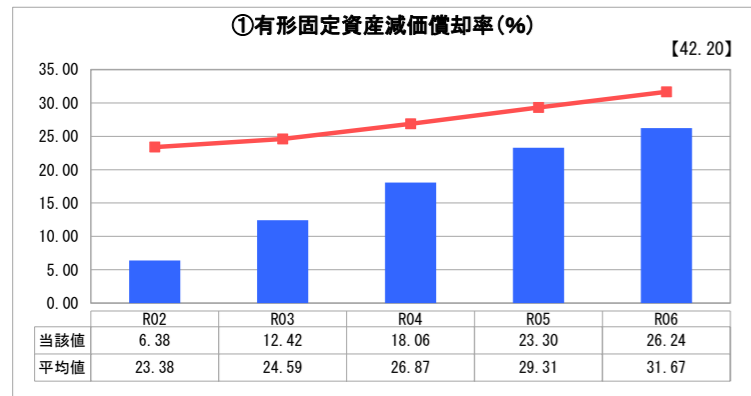
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を僅かに上回り、収支はほぼ均衡しています。ただし、中長期的には経常収支の赤字幅の拡大が見込まれることから、更なる費用縮減の取組と併せて下水道使用料の改定による収入増が必須な経営状況となっています。

② 累積欠損金比率は、純利益の計上により改善したものの、今後は経常収支比率と併せて悪化が懸念されます。

③ 流動比率は、企業債償還額が増加したため、低下しました。今後は企業債償還額の増や下水道使用料収入及び実質減価償却費の減に伴う現預金残高の減少により、更なる低下が想定されます。

④ 企業債残高対事業規模比率は、企業債借入額の増加により上昇しています。今後は建設改良費が増加傾向にあることから、更なる低下が想定されます。

⑤ 経費回収率は、減価償却費等の減少に伴う汚水処理費の減少により改善した一方、⑥ 汚水処理原価が類似団体平均よりも低い状況にあるにも関わらず100%を下回っていることから、適正な下水道使用料収入の確保が必要です。

2. 老朽化の状況について

昭和40年代から50年代にかけて集中的に下水道整備を行っていたことから、10年後には②管渠老朽化率が80%超と急速な老朽化が想定され、併せて①有形固定資産減価償却率も上昇していきます。

③管渠改善率は、類似団体平均を上回っています。引き続き、令和2年度に策定したストックマネジメント計画に基づき、緊急度及び重要度を踏まえたうえで、計画的かつ効率的に管渠の更新を行います。

全体総括

汚水処理原価が低いにもかかわらず、経費回収率は100%を下回る状況が続いています。中長期的にも、老朽化・劣化対策事業をはじめ、建設改良需要が増加傾向となることが想定され、経費回収率、経常収支比率、及び流動比率といった主要な経営指標の悪化が想定されます。

以上のことから、令和6年度に導入した包括的民間委託の効率的運用をはじめとした更なる経費縮減策を講じるとともに、下水道使用料改定による適正な使用料収入の確保が必須な状態です。

なお、下水道使用料については令和8年10月に改定を行います。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。